

いわて便り

No. 17

2018年1月12日発行

1 月号

日本生協連
組合員活動部

この冬は最低気温がマイナスの日が多く、被災された方には寒さの厳しい冬となっています。

昨年末には、台風10号で大きな被害を受けた岩泉町の仮設住宅で、初めての年末昼食会を開催しました。岩泉町は東京23区と同じ面積に9千人が暮らす山間地です。



台風10号支援 岩泉町仮設住宅で年末昼食会を開催

12月26日、岩泉町の仮設住宅7か所と災害公営住宅1か所で、「年末昼食会」を開催し、住民の方47人とボランティア26人が参加しました。住民のみなさんに楽しい時間を過ごしていただこうと、岩泉町で初めて開催しました。

滝の上仮設住宅での昼食会には、12人が参加。鍋やお餅、お正月料理を囲んでおしゃべりが弾みました。食事の後は、こうち生協からのニット製品のプレゼントをお渡ししました。

「こんなにいっぱいいただけるなんて、おせちまで！」と感激したり、「これから娘や孫が帰ってくる」と嬉しそうに話す方もいました。

仮設住宅で2回目の正月を迎えることになり「買物が不便」「寒さが厳しく感じる」などの声が出されました。

特にこれまで薪ストーブを使用している家庭が多かった

ので、仮設住宅のエアコンでは余計に寒さを感じるのかもしれません。



みんなで食べるとおいしいね



あったかいニットのプレゼントありがとう!



台風10号(2016年)の復興支援 岩泉町「生活橋」復旧支援募金を贈呈



左から中居副町長、内澤副理事長

いわて生協では、いわて便り No.14 で紹介した岩泉町「生活橋」復旧支援募金に取り組みました。組合員のみなさんから寄せられた募金63万円といわて生協からの募金37万円のあわせて100万円を11月17日に岩泉町へ贈呈しました。

副町長からは「生活橋を復旧しなければ今後がきびしい。生協からは家電購入支援などもいただき感謝しています。これからも頑張りたい」とお礼のことばをいただきました。



「居場所づくり」学習講演会

東日本大震災から6年8ヶ月。この間いわて生協では、仮設住宅を中心に「ふれあいサロン」活動を続けてきましたが、自力再建や復興公営住宅への移行も進み、サロンの開催箇所も、参加者も減ってきています。

一方、家を建てたけれど新しい地域とのつながりがない、復興公営住宅に入ったけれど知り合いがないなど孤立している方も多く、つながりづくりが課題になっています。支援ということだけではなく、そこに暮らす人々のくらしの問題として、今後どのように取り組んでいけばよいのかを考える機会として、コープこうべの理事長山口一史さんをお招きしてお話を聞きました。山口理事長からは、1995年の阪神淡路大震災の経験をもとに「居場所づくり」はなぜ必要なのか、その意味やすすめていく上での重要なポイントなどをお話いただきました。

参加者からは「自分らしくいられる（＝重要他者）とても大切なことを教えていただき気持ちが落ち着きました。」といった感想がよせられました。



他団体の 活動紹介

いわて生協では全国の生協のみなさまから寄せられた募金を活用し、岩手県内で支援活動に取り組む団体を支援する「被災地支援活動助成金」制度を2016年度からスタートしました。この助成金を活用して活動する団体を紹介します。

一般社団法人 Tsubomi (大槌町)

子育て支援などを中心に大槌町で活動している一般社団法人 Tsubomi(つぼみ)。メンバーは地元の若い女性です。

今回の助成金で「子育てフェス 2017in 大槌」を11月に開催しました。「家族みんなで楽しめるイベントを!」ということで、ステージ発表や大型遊具コーナー、家族写真撮影コーナーなど様々なブースを設置。消防ポンプ車やショベルカーの「はたらくくるま」コーナーも盛況で、当日は400名以上が来場しました。



大槌町内の体育館を会場に開催

「いわて生協をはじめ、全国の生協のみなさまのご支援・ご協力で行い取り組めました」と感謝の言葉をいただきました。

発行

日本生協連 組織推進本部 組合員活動部
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

小池、住吉